

link ~まちとリンクする建築~



■設計主旨

敷地は中心市街地の角地にあり、遊、住、働の多用途の賃貸形式の建築空間とした。間口60mと長い敷地を活かし、建物をセットバックさせ、凹凸をつけることで中間領域を設け、街路への圧迫感を軽減している。多用途な機能と明るく豊かな路地空間を設けることで自然と人々が憩い、行き交う場を提供している。

サッシ外側のルーバーは通行者の視線を断続的にカットしつつ、外部に対しそこに住む人の生活感を適度に感じさせる働きをする。落とす影は室内のイメージを構成する一部となり、夜にはルーバー間から漏れる光が街を明るく照らす。遠目のルーバーは面として見えるために、2、3F部分は目隠しとして機能し、1Fのガラスカーテンウォールが強調され、室内の動き、陳列物が目を引くよう意識した。広告としての役割を果たすと共に、内部の賑わいが通りにあふれだす。

建物の構成素材を杉板型枠の打放し(温みと荒々しさ)、ガラス(透明感)、アルミ(繊細さ)と限定することで、表情の質感が強調され、相乗効果により都市の中に緊張感と野性感を混合させることができた。

看板をアイストップとなるシンボルツリーの幹に配置したことで自然な形で目に留まるようにした。景観を壊しがちな看板を外構設計と一緒に考えることで、分かり易いサイン計画とすると共に周辺の雰囲気馴染ませることができた。

敷地角に立つシンボルツリーの他にも、通りに沿って並木を配置することで温かみをあたえつつ、長い敷地を活かして遠近感を強調している。並木、サッシ、ルーバーとそれぞれ違ったオーダーとすることで、建築の形体を身近なスケールに近づけることができた。また建物の外観を構成する素材をグレー系に限定したので木の緑がより引き立つ。建物の周囲に植栽することで地球環境維持への配慮(CO₂削減)も行っている。界壁をRC造にし内外装に不燃材を利用することで延焼を防止、用途別(テナント、住居、事務所)の動線を設けることで、災害時、管理上での安全な動線計画に努めた。RCの仕上げの型枠を再利用することで廃材を最小限に止めている。

